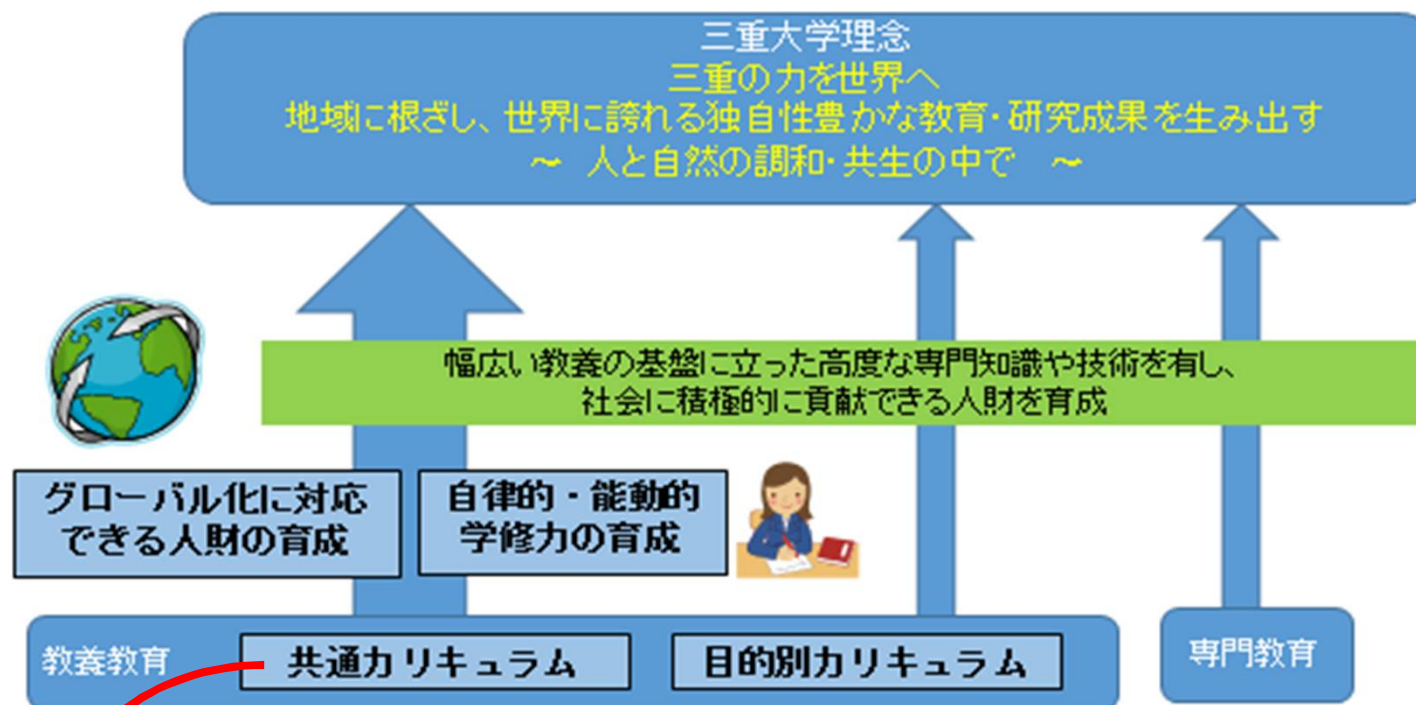


【図解】 新規開講 アクティブ・ラーニング科目  
「教養ワークショップ」とは

教養教育機構 教養基盤科目部門

# カリキュラム上の位置づけ



<http://www.mie-u.ac.jp/department/la-ars/policy.html>

## アクティブ・ラーニング科目

自律的・能動的学修力の基盤となるコミュニケーションの4要素  
「聞く」「話す」「読む」「書く」の能力の育成を目的としています。

(1年前期)

スタートアップセミナー

「聞く」「話す」

グループワーク、プレゼンを主体とした授業

(1年後期)

教養ワークショップ

「読む」「書く」

新書(論説文)を読み書評(論説文)を書く授業

新規

## 学習の目的

図書や文献を読むこと、文章を作成することは、情報収集、情報発信の一般的な形態で、自律的・能動的学習力の基盤となる「読む」「書く」能力を育成することを目的とします。前期のスタートアップセミナーで培った「聞く」「話す」能力と統合し、知的コミュニケーション力の獲得を目指します。

情報収集の  
幅を広げる

成書の情報を  
元に思考する



読む



書く

情報発信の  
幅を広げる

アウトプットを  
前提に  
思考する

**「聞く・話す」+「読む・書く」 → 読み書きで対象は大きく広がる**

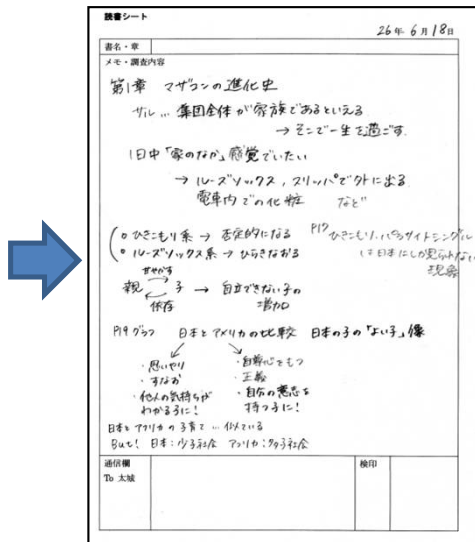
# 授業の概要

**書評の作成を通じて、「読み」「書き」を鍛えます！**

教員のファシリテーションの下、半期で新書(基本的に論説文)を一冊以上読んで、書評を書きます。文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、スタートアップセミナーで培ったグループ学習も取り入れます。1クラスは30名程度とし、5×6班に分けます。学生は毎回読書シートを作成しつつ本を読み、読書シートに基づく討論や書評のピアレビューを班で行います。



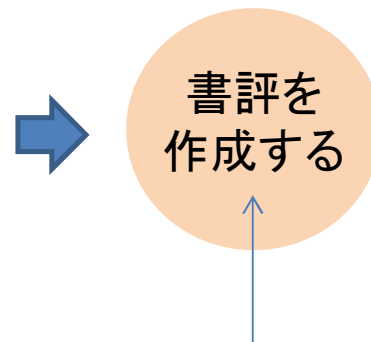
## 新書(論説文) を教材とする



# 手書きのメモを 取りながら読む



内容を班で議論、  
書評をレビューする



※ 単なる感想文ではなく、  
他者に紹介するべく、  
的確な内容の要約と  
自らの見解が論理的に  
述べることを目指します

# 教材となる新書について

教材となる新書は、学部の教員が推薦する課題図書のリスト(学生も新規に推薦可)の中から選びます。場合によっては「ビブリオバトル」(下図)と呼ばれる投票によって選択され、学生の興味・関心が高い本を選ばせる方法もあります。

## ＜本の選び方の例＞



学部教員が推薦する課題図書リスト  
(学生も新規に推薦可)から選ぶ

↓  
班で同じ本を読み  
それぞれが書評を書く

## 『ビブリオバトル(知的書評合戦)の流れ』

—人を通じて本を知る、本を通じて人を知る—

<http://www.bibliobattle.jp/>

# 授業計画

半期全15回は、原則的に①新書を読む、②書評を書く、③書評を改訂・査読する、3つの期間に分かれます。学生が読んだり、書いたりする間に、「本の選び方」「読み方」「書き方」に関する関連講義・演習を行います。

書評を最終レポートとして課すのではなく、査読・改訂の過程が入ります。

## <ビブリオバトルを導入した1例>

| 回数    | 内容                                  | 備考                    |
|-------|-------------------------------------|-----------------------|
| 1     | ガイダンス                               |                       |
| 2     | 本を用いた自己紹介                           | 第1回ビブリオバトル            |
| 3～5   | 読解法、書評の構成などについての講義・演習               | ①各自が本を選び読みます。         |
| 6     | 書評を書くための本を班で選ぶ                      | 第2回ビブリオバトル            |
| 7～11  | 班で読み合わせ → 書評の原案の完成<br>書き方についての講義・演習 | ②各自が本を読み書評の原案を書きます。   |
| 12～14 | 書評の査読・改訂                            | ③各自がコメントを参考に書評を改訂します。 |
| 15    | 完成した書評の回覧・総括                        |                       |

## シラバス(参考)

2014年度の試行で行われた授業のシラバス例です。  
実際は一部変更されています。  
詳しくは、教養教育機構にお問い合わせ下さい。

回数：

全 15 回－（ビブリオ 2 回＋総括 1 回）＝12 回

ガイダンス、模擬講義 2 回

前半（書評を書くための本を選ぶまでの期間）：3 回

中間（書評の原稿ができるまでの期間）：4 回

後半（書評を添削、校正する期間）：3 回

### ・学習内容

#### 1. 履修ガイダンス・模擬授業

講義の形式、単位認定について

課題図書リストの紹介：図書の分類、論説を扱う新書の説明

ビブリオバトルの紹介：ルールの説明、事例を示す動画の提示

ミニ模擬授業「事例で学ぶ、すぐに使える作文テクニック 1」

班分けの予告、テーマの提示（下記）

#### 2. 履修ガイダンス・模擬授業 ※履修の修正登録を受け付けるため

講義の形式、単位認定、課題図書リスト、ビブリオバトルについて

ミニ模擬授業「事例で学ぶ、すぐに使える作文テクニック 2」

班分け：教員が提示する 2～3 のテーマから学生が 1 つ選び、テーマ別に班分けする

＜テーマの例＞ 医学部教員が担当する場合  
人文科学の一般的なテーマから「生と死」、  
社会科学の一般的なテーマから「医療と社会」、  
自然科学の一般的なテーマから「生命と科学」、など

### 3. 第1回ビブリオバトル（本を使って自己紹介を行う）

班別に、班のテーマを問わず各自がこれまで読んだ本（漫画も可）を自由に持ち寄り、5分間口頭でプレゼン、2～3分の質疑応答を行う。プレゼン後、どの本を読みたくなったか、投票する。

各自、ルールを理解し、次回のための班のテーマにあった新書を探し、読み始める。  
読書ノート（読書日誌）の記載の説明を受ける。

### 4. 講義と演習 1

読解：情報収集と内容の吟味、理解する技術、  
演習：読書ノートの報告、確認 1

### 5. 講義と演習 2

読解：要約する技術、メモを取りながら読む、  
演習：読書ノートの報告、確認 2

### 6. 講義と演習 3

読解：書評とは、書評を読む  
演習：読書ノートの報告、確認 3

## 7. 第2回ビブリオバトル（書評を書くための新書を投票で選定する）

第1回のビブリオバトルと同様に行い、投票で一位になった本をグループ全員で読み、書評を作成することに決定する。

読書ノート（内容メモ）の記載の説明を受ける。各自で本を入手する。

## 8. 講義と演習 5

文書作成：分かりやすい文章とは

演習：リーダー（投票で1位になった本を紹介した学生）を中心に班員で精読の計画を立てる。

## 9. 講義と演習 6

文書作成：分かりやすい文章の書き方、段落構成

演習：読書ノートを使って班員で読み合わせ 1

## 10. 講義と演習 7

文書作成：分かりやすい文章の書き方、文の構造

演習：読書ノートを使って班員と読み合わせ 2

## 11. 講義と演習 8

文書作成：書評の構成、書評の書き方

演習：読書ノートを使って班員と読み合わせ 3

## 1 2. 書評の作成 1

講義：教員が 2, 3 の学生の書評原稿を公開添削、コメントする。

演習：書評案を持ち寄り、班員で討議し、改訂する。

## 1 3. 書評の作成 2

講義：教員が 2, 3 の学生の書評原稿を公開添削、コメントする。

演習：改訂した書評を他班に査読を求め討議後、さらに班員で討議し改訂する。

## 1 4. 書評の作成 3

講義：教員が 2, 3 の学生の書評原稿を公開添削、コメントする。

演習：書評の仕上げを行う。

## 1 5. 総括・アンケート

クラスで 2～3 のテーマに沿った 5～6 冊の本の書評ができる。書評を発表しクラスで共有する。振り返りを行う。

### ・学習課題（予習・復習）

前半は書評を書く対象の本を選定するために班員各自で新書を読むこと、後半は書評を書くために本の内容を把握するために、読書ノートを作成しつつ精読することが、自己学習の課題となる。後半では書評作成のため、予め下書きや原稿を作成することも課題となる。

評価は読書ノートの作成、書評、グループ学習への参加の様子を元に行われる。